

会 議 録

1 会議名

平成30年度 第11回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 上越市バイシクルモトクロス場 開設日等の変更について（公開）
- (2) 地域活動支援事業 募集要項及び審査・採択の基本的なルールについて（公開）
- (3) 自主的審議事項「金谷区の観光・イベントについて」（公開）

3 開催日時

平成31年2月27日（水） 午後6時00分から午後7時25分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：高宮宏一（会長）、川住健作（副会長）、村田敏昭（副会長）、
伊崎博幸、牛木喜九、桑山敏男、齋藤邦博、高橋敏光、竹内恵市、
永野起男、西条聖士、山口茂幸、吉村清正
- ・ 観光振興課 施設経営管理室：丸田副室長、宮澤主任
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【小林主任】

- ・ 石野委員、伊藤委員、土屋委員を除く13名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は高宮会長が務めることを報告

【高宮会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：伊崎委員、牛木委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【高宮会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

一次第3報告（1）上越市バイシクルモトクロス場 開設日等の変更について—

【高宮会長】

次第3報告（1）「上越市バイシクルモトクロス場 開設日等の変更について」に入る。

観光振興課 施設経営管理室に説明を求める。

【観光振興課 施設経営管理室 丸田副室長】

資料No.1により説明。

【高宮会長】

観光振興課 施設経営管理室の説明について意見、質疑を求める。

【村田副会長】

金曜日は開設準備日となっているが、利用できないのか。

【丸田副室長】

利用は可能。平日の利用になるため、土・日・祝日のように自転車を貸し出すことはできないが、申請書を提出して利用ということになる。今の質問の向きは、管理人がいるのだから、土・日・祝日だけではなく金・土・日・祝日を開設日にしたらどうかにつながっていくと思う。バイシクル協会の方からもそのような意見をもらった。そのため、来年度の様子を見ながら、これですっとというわけではなく、検証しながら進めていき、変更可能な部分は検討したいと考えている。

【村田副会長】

これを見た利用者は、金曜日はどうなのかと戸惑うような気がする。従って、その辺の説明が追記してあれば、より親切ではないかと思う。平日というのは月曜日から木曜日なのか、金曜日はどうなのかと勘違いする可能性もある気がする。

【伊崎委員】

事前の利用申請書は、前日に提出でも可能か。

【丸田副室長】

なるべく可能なようにする。

【齋藤委員】

昨年、地域活動支援事業で、ここでイベントを実施し、かなり人気を博した。そういう団体や協会やクラブがいくつかあるのだろうが、市からその方達に対してこうなることの説明は済んでいるのか。

【丸田副室長】

上越バイシクル協会に秋頃から話を持ち出した。そちらには、コースそのもののメンテナンスのような部分を毎年お願いしている。その方々と利用状況について話をする中でこの話をしたり、代表の方とも話をした。代表の方からは、決まっていないことが広まるといけないため、メンバーの人と少し話をしてもらい、意見をもらうようなことを数回行った。

ちなみにイベントの関係だが、上越バイシクル協会は年間3～4回大会等で土・日に利用しており、それから上越バイシクル協会も加盟していると思うが、全日本連盟が主催する大会が2回ほどある。その他に金谷フェスがあり、平成30年の開設期間中は6～7回の大会、イベントがあった。

【齋藤委員】

何年に1回とか、年に1～2回という形で大会をするところもあるだろう。

平日は学校もあるし。学校への貸出しはあるのか。

【丸田副室長】

平成30年は市内の小学校の1クラスが総合学習の中で、1回目は自転車を学校に持って行って教え、2回目は生徒がBMX場に来て実際に走った。

【齋藤委員】

何台くらい用意したのか。

【観光振興課 施設経営管理室 宮澤主任】

17台くらい。

【齋藤委員】

1クラス全員が来たのか、あるいは分けてか。

【丸田副室長】

1クラスで来て、順番に乗っていた。35～6人。

【高橋委員】

使用に関することとは関係ないが、上越バイシクル協会の会員は何人いるのか。

【宮澤主任】

50人程度だと記憶している。

【桑山委員】

個人での申込みはできるのか。例えば、私が行って練習することはできるのか。

【丸田副室長】

できるが、自転車を持参する必要がある。平日は貸出しができない。

【桑山委員】

その時にもし事故で足を折ってしまったといった時の保険というのは、どのような形か。自己保険か。

【丸田副室長】

管理人がいたとしても、全て自己責任。よほどコースが悪い状況であれば市の責任もあろうかと思うが、通常は自己責任の中でしてもらおう。

【高宮会長】

利用客が少ないことから平日は開設しないということなのだろうが、この後金谷区では「金谷区の観光・イベント」に力を入れていこうとしている中で平日がないということになると、小学生などは平日駄目だろうが、他のエリアから来た方はどうなるのかと。観光客が来ない。あそこにはヨーデル金谷があるが、さらに収入が落ちるのではないかという感じがするが、その辺はどう考えているか。

【丸田副室長】

BMX場のことを考えれば、飛び込みの方への対応として平日も開いていた方が当然よいのだろうが、説明どおりの状況であるため、それを補うために申請書を出せば使えるという状況を作っておく。ヨーデル金谷のお客との兼ね合いがどのくらいあるのかは分からないが、金谷フェスの時、主催者や集まる方達と話をしたが、ヨーデル金谷から「うちのレストランの様子とは違うため、一緒になって動くのは難しい」との話もあった。そのため市とすれば、BMX場については、平日はフリーではないが使えるということ、今は皆さんインターネットでいろいろ調べているため、そういうところでもしっかりとPRし、BMX場も使ってもらい、その中で少しでもヨーデル金谷に来てもらい、あるいは金谷山のボブスレーなども楽しんでもらえればよいと考えている。

一次第3報告（2）「地域活動支援事業募集要項及び審査・採択の基本的なルールについて」

【高宮会長】

次第3報告（2）「地域活動支援事業募集要項及び審査・採択の基本的なルールについて」に入る。

事務局に説明を求める。

【小林主任】

・平成31年度の募集要項、審査・採択のルール等の案について、資料No.2～5のとおり作成。今後全区統一の修正内容を反映する予定。

【高宮会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

参考資料の「地域協議会の見直し結果等」は、前回会議で決まった修正点を反映したもの。この内容で市に報告した。

このことについて質疑を求めるがなし。

一次第4議題（1）自主的審議事項「金谷区の観光・イベントについて」

【高宮会長】

次第4議題(1)「自主的審議事項『金谷区の観光・イベントについて』」に入る。
前回の会議では、地域課題「観光」を自主的審議に取り上げることが決まった。
本日は、今後具体的に何を協議したらよいかを決めたい。

資料No.6に、今後の協議内容に関すると思われる今まで出された意見をまとめてある。これまでの会議では、高橋委員と竹内委員から、「①独自に活動している地域団体同士の協力を促してはどうか」を進めたらよいとの意見が出ていた。委員に意見を求める。

【川住副会長】

それぞれ団体があり、それぞれの目的を持って個性を活かしながら活動していると思う。地域協議会がパンフレットなどをそういう団体に配布するという形が①に該当するのではないかと思う。個々の団体を集めて、というのは非常に難しいと思う。時間的にも今年1年の間にこれらを取りまとめるのは難しいと思うため、前に金谷地域歴史を守る会が作成したパンフレットなど、今あるパンフレットをどこに配ったらよいかを詰めたらどうか。例えば南葉高原キャンプ場、正善寺工房、ダム関係など、人が集まりそうなところにパンフレットを配り、活動状況を見る、ということから徐々に始めていった方がよいのではないか。

【高宮会長】

川住副会長の意見について、意見を求める。

【川住副会長】

追加する。地域協議会には、そういうところに配ることができる人はいない。常時いるような人でないと小まめに動けないと思う。福祉交流プラザの中に金谷地区振興協議会の事務所があるので、各団体に取りに来てもらうのか、配るのか、その辺を詰めていった方がすぐに活動できるのではないか。

また、パンフレットについては、今あるものを増刷する。非常に詳しく調べたものがある。それを個々の団体に常時置いてもらうといった活動をすぐに始めた方が、効果が出るのではないかと思う。

【齋藤委員】

観光について何年もずっとやってきている感じがするが、なかなか絞り切れない。各町内や各地域、神社なども含めて、それぞれで開催されるいろいろな祭りや運動会も含めたイベントがある。例えば正善寺バスでいうと、上正善寺など、沿線の関係している町内が数町内ある。この路線は上がって降りてくるだけで、巡回するような場所があればよいのだが。いずれにしても地域の足として、当初は非常に活発で、車がない時代で子どもも多かったため、バスの利用客が非常に多く、大型バスが来ても乗り切れないため臨時増便を出した時代もあった。そこから時代が変わり、乗降客が目に見えて減ってきて、各町内が何とかその路線を維持しなければいけないという危機感に駆られたため、利用促進協議会が設立され、毎年2月に市とバス会社から来てもらい、それぞれの町内の代表等が乗り、バス路線を守っていこう、そして全体で知恵を絞っていこうということに基づき、いろいろなイベントを行ってきた。

そのように、それぞれでイベントをやっているのを、地域協議会で各地域の観光を含めてやっていることを全部ピックアップ、リスト化して整理し地域協議会でパンフレットなどを作る。誰かにやってもらうのではなく、地域協議会で知恵を絞り、冊子やパンフレットなど何でもよいが、一つでも出してみたらどうか。それができるかどうかを考えてみる。お金がかかるかもしれない。それを他の団体に「地域活動支援事業を活用してやってほしい」と言っても、「我々の仕事ではない」と言われるだろう。予算は別として、何かそういったことをしてもよいのではないか。また、やるとしたら我々しかいないのではないか。

【村田副会長】

地域協議会は、話をしたり打合せをしたり道筋をつけることはできるが、予算を付けて資料を作ることはできないのではないか。事務局どうか。

【小林主任】

地域協議会としてパンフレットや冊子を作ることはできない。ただし、地域協議会とは別に、例えば地域協議会委員が有志で集まって別の団体を作り、そこでパンフレットを作ることは可能。

【高橋委員】

齋藤委員の話は、恐らく金谷北地区農村元気会の話だと思うが。

それでいくと正善寺工房と南葉高原キャンプ場の祭りは、それぞれ同じくらいの時期になる。上越妙高駅でも、やはり同じ頃にイベントをする。イベントだらけになってしまい、客の取り合いをしている。金谷の地域全体で一つにまとめて何かやるというのは、こういったことをしているという宣伝はできるが、イベントまで一緒にするというのは、イベントになると客の取り合いをしているため、なかなか難しいと思う。金谷北地区農村元気会や、正善寺工房、南葉高原キャンプ場、上越ホテルの会もイベントをする。いろいろな団体がみんな頑張っているが、それをまとめるのは難しいような気がする。イベントについては、各々で考え各々で日取りなどを決めてやっているが、そのままで仕方がないと思っている。全ての団体に集ってもらい、「みんなでチラシを作ろう」と言っても、年間のイベントを何日頃にするかというだけの話になり、客を引き寄せる力というのはないと思う。うまい方法があればよいが、それは難しいと思う。それぞれの団体に頑張ってもらい、みんなで話し合う場は作ってもよいが、一緒にものをやるというのは難しい気がする。

私は歴史観光のようなことをしている。一般の方を相手にする場合もあるし、小学生を対象にすることもある。このあいだ、南葉高原キャンプ場はどのようにしてできたのかを説明してほしいということで、黒田小学校に行き、通常授業の1時間を取ってもらい、まとめた資料を用意して説明してきた。飯小学校でも、御殿山町が高田姫ゆかりの地というのはどういうことかといった勉強会に行ったり、御殿山町に来てもらったりしている。そういった単品の観光PRみたいなこともしている。それから、5年ほど経つが、歴史観光マップを作ったが、あれは効き目がある。あれを欲しいという人はものすごくいっぱいいて、あれを持って親子で金谷地区を回って歩いたという方もたくさんいるし、他の所から来た方に案内をお願いされたこともある。それから公民館事業でも、小学生を募集して3日間3か所に分けて歴史のある場所を案内した。そのような活動をしているが、なかなかお金にならない。正善寺工房や南葉高原キャンプ場の食堂などは多少収入になるだろうが、観光PR

だけではお金にならないのが現実。

「団体を呼んで話し合いをした方がよいのではないか」という意見があるが、話し合い自体は悪くないと思う。皆さんの考えを聞き、みんなで考えるのはよいこと。団体はたくさんあるので、声を掛けて、どのような活動をしているのか、また他の団体と一緒に活動できるかどうかくらいのことは聞いてもよいと思う。

【吉村委員】

高橋委員の意見はよく分かるが、各団体は派手な活動ができるほどお金を持っていないと思う。地域協議会はもちろんお金は持っていないし、そのような立場ではない。人を集める、人を呼ぶということになると、イベントを開催するしかない。年に2～3回で、毎月はできるわけがないが、限られた予算の中なのでそれでも大変だろう。そうすると必然的にみんなで客の取り合いになってしまう。よい時期というのはだいたい決まっている。そこから話を進め、重ならないようによい時期をみんなで練り合わせていくとなると、イベントを開催できる金谷区の団体を呼び、どのように動いたら一番効率的なのか、どのようなことをすれば一番人を集められるのか、といった話をすることになる。そうすると地域協議会としては、それをきちんと取りまとめてコントロールできる、コーディネートできる立場にいないと、皆さんの意見だけ聞いても何もならない。その辺りはきちんと確認しておかなければならないのではないかと思う。ただ、どのようなイベントをしているのか、どのくらいお金がかかるのかを聞くだけでは駄目で、「あなた達はこれをここに移したらどうか」、「この人達は前の月にこれをやるから、このような流れではどうか」というくらいまできちんとコーディネートできる考えで向かわないと、進展がないと思う。お金を儲（もう）けるにはお金を使わないと駄目なので、いかに派手なイベントをいかに派手にPRできるか、ということになると思う。

【齋藤委員】

吉村委員の意見について、私もそのようなつもりで話した部分もあった。高橋委員のとおり、金谷観光協会などいろいろな団体があり、以前にもいろいろな団体を呼んだことがあった。その団体の方々に「これをお願いします」と投げても、範疇（はんちゅう）が違ったり、別のところにまたがったりするとお手上げになってし

まう。吉村委員のとおり、それぞれの団体のいろいろなイベントについて、客の取り合いみたいな状況になっているかもしれないが、それぞれ活動している実態がある。各団体が活動していることを、単発ではなく、地域協議会がコーディネーターとしてくっつける役割で、相談というか俯瞰（ふかん）的にものを見られるような位置付けでやれることがあるのではないかと、また必要ではないかと思っている。

【吉村委員】

自分で言った意見の裏返しになるが、例えば各団体の話を聞いてコーディネートしようとした場合、地域協議会からは活動費を一銭ももらっていないのに口出しされるのは大きなお世話だと言われるかもしれない。私が団体の立場なら、そう言うかもしれない。その辺りをどう考えたらよいかは、まだ整理ができていない。その辺りを皆さんはどう考えるか。そのように進めた場合、難しいところ。

【高宮会長】

吉村委員のとおり、難しいことだと思う。我々もその内容、あるいはこのようにした方がよいというような考え方を持つには、常に自分で勉強しなければ駄目だと思う。

【村田副会長】

高橋委員、7年前にパンフレットを作った時に金谷観光協会があったと思うが、そこへ打診するとか、そこと一緒にやろうという考えはなかったのか。

【高橋委員】

何もなかった。あの団体の目的は金谷山だけの話で、看板を建てて収入を得て維持管理をしているだけの団体だと思っている。パンフレットを作ると言っても音沙汰がないからそれきりになっている。

【村田副会長】

金谷観光協会の会長もあれから変わったと思うが。

【高橋委員】

それ以降、総会に行っていないため、内容が分からない。

【村田副会長】

個人的には、金谷観光協会や金谷地域歴史を守る会といったところが手を結び、

例えばパンフレットを作るにしても共存共栄でやっていくことができないものか
とと思っている。

【高橋委員】

私達がパンフレットを作る時に当時の会長に会ったが、関心がなかった。

【村田副会長】

会長は代わったが、一緒か。レルヒの会というのもある。

【高橋委員】

レルヒの会などのスキー関係の方は、市の観光コンベンション協会などと協力し
ているため、難しいところ。

【村田副会長】

レルヒの会は個人会員らしい。

【山口委員】

このあいだ顕彰会には誘われた。上越市がしているから。

【村田副会長】

そういうところは動けないのか。

7年前に高橋委員が、いくつかの町内会の奇特な方6～7人でパンフレットを作
った。とても立派なパンフレット。今また冊子にしてもよいくらい。

【高橋委員】

今年も作ろうと思っている。

【村田副会長】

それに金谷区地域協議会も手伝いができるような形に持って行ければ。今まさに
観光にスポットを当てているわけなので。地域活動支援事業に提案する計画か。

【高橋委員】

そうだと思うが、まだ具体的にまとまっていない。

【山口委員】

そこは、歴史の冊子も作っている。私は2冊とも読んで参考に使っている。非常に
素晴らしい歴史を書いた冊子だと思う。

分からないのが、金谷観光協会。高橋委員の説明のとおりの活動内容かなと思っ

たが、「灰塚町内も金谷観光協会に入り、いろいろなことで活動できないか」という方もいる。

【高橋委員】

私は金谷地区全体のことを考えて仕事をしているが、あの人達は金谷山だけ。

【山口委員】

ホテルの会もあるし、金谷山ワインの会というのもある。

【村田副会長】

金谷山ワインの会はまだあるのか。

【山口委員】

もうない。何年前にやめた。私もずっと入っていたが、いろいろな人を呼んでやっていた。

【高橋委員】

金谷山ワインの会は、宮越市長の時にBMX場の辺りでビールなどを作った方がよいのではないかという話があり、その時にできた会だと思う。

【山口委員】

結構幅広くやっていた。

【齋藤委員】

観光協会の関係で、あまり集まっていなかったが、金谷地区の旅館で酒造組合などが来てお酒を飲むイベントをしていた。私は町内会長になって最初の2年ほど行っていたが、そんなには行かなかった。金谷観光協会でリーダーシップを取って何かするようなことは一切なかった。酒造会社などの人達を呼び、いろいろな話を聞いたりしていただいだけ。行事としては、ワインやお酒と料理を楽しむ会みたいなこと。

【高橋委員】

昨日も市内の老舗料亭でやっていたと思う。

【山口委員】

私が参加した時は、いろいろな団体を呼んで盛況にやっていた。ホテルの会など、金谷山にまつわる人達がみんな集まってしていた。

【齋藤委員】

観光協会という名前に実態が伴っていないということ。

【高宮会長】

これまでの話の中で、①の関係では、その前に我々がもっと内容を知り、指導すべき立場の人を作らなければ駄目だが、なかなかそれは難しい。意見を聞くだけでも意味はあるだろうが、それだとなかなかまとめられないと感じているが、どうか。

【川住副会長】

観光の対象を、地元なのか県外客にするのか。イベントが重なるというのは、地元の人達を対象にした観光を考えているのだと思う。その他に、県外客など金谷区以外から来る人達に対して、マップなどのものを。金谷区のマップで非常によいものがあるので、そういったものを上越妙高駅などの観光PRになるところに配布することから始めるのが一番手っ取り早いという気がする。今の話では、ほとんど金谷区の地元だけを対象にしたような話が多かったように思う。しかし、観光なので、地元以外の県外客や外国人も。先日の新聞に、スキー客が上越妙高駅を出発し、スキーリゾートに寄ってうみがたりへ行くというような記事が載っていた。そういった観光もあるため、マップを置けるところに置き、県外からの観光客にも見てもらったらどうかと思う。地元の話なのか、それとも金谷区以外の観光客を対象にしているのか、その辺を分けて話を進めてもらいたいと思う。

【山口委員】

吉村委員のとおり、我々で提案をしても難しい。コーディネーターが地元にいる、または上越妙高駅にパンフレットを置いてそれを説明する人がいる、という体制ができていれば我々も協力していくが、今は何もできていない。

【川住副会長】

上越妙高駅には上越市のマップやパンフレットは置いていないのか。

【山口委員】

高田駅にはマップなどがあるが、上越妙高駅は見に行ったことがない。

【川住副会長】

せっかく金谷区のマップがあるのに、そこに置いていないというのは。

【吉村委員】

あの程度では人は来ないと思う。大阪にいる学校時代の友達から、「妙高地区にある大手リゾートホテルがやっているイルミネーションはすごいらしい。あそこで昼間ゴルフをして、一晚二晩泊まりたいが、どんなところか」と聞かれ、「高原だから涼しいし、閑静だし、ゴルフ場もきれいだし、テニスコートもあるし、乗馬もできるし、いろいろ遊べる」という話をした。「何で知っているのか」と聞くと、「CMがガンガン入る」とのこと。私達は東京や大阪でCMをしているのは知らない。それを行えばどこからでも来るのだろうが、結局はお金。駅にパンフレットを置いて、持って行く人は果たしているのか。市役所のロビーにきれいなパンフレット置き場がある。高田駅にも、おそらく上越妙高駅にも同様のものがあるはずだと思う。ただ、それだけではどうなのだろう。そこまでしか考えられない。その先はもう無理。

【高宮会長】

そうすると、「金谷区の観光・イベントについて」、地域協議会としてこの一手を、というのはなかなか難しいという感じ。先ほどレルヒ祭の話があったが、これは本町商店街、観光、地元が一つになり、あのようなイベントを手掛けてきている。その中で、金谷区地域協議会で何か手伝えることはあるかというような話で行けば、また違うかもしれないが。皆さんの話を聞くと、資料にある取組案は全て難しい問題だと私は思ったが、どうか。

【伊崎委員】

①に関して一つアイデアだが、異業種交流会的なことが開催できたら面白いと思った。テーマは、金谷区の観光・イベントについてみんなで考えないかと。各種団体のほか、一般の方にも来てもらう。たくさんの方で知恵を出し合っていけば、面白いアイデア、具体的な考えが出されるのではないかと。また、たくさんの業種の方が集まれば、協力し合えることができるのではないかと。金谷区地域協議会で音頭はとるが、金谷区を元気にする団体の一つとして参加するというのもありなのではないかと考えた。

【高宮会長】

皆さんから出された意見をもとに、正副会長で今後の進め方について協議し、

次回以降の会議で続きを議論したいと思うが。

【齋藤委員】

また同じだろう。また元に戻るのでは。

【高宮会長】

皆さんがこれでよいと言え、これで終了する。

【村田副会長】

高橋委員、金谷観光協会と話をする余地はないのか。

【高橋委員】

金谷地域歴史を守る会と金谷観光協会は無縁。

話をするというのは何か。

【村田副会長】

伊崎委員から異業種交流会でそういった人達と話をしてみたらと。

【高橋委員】

異業種で話をするのはよいと思う。しかし、地域協議会でどうするか話ができればよいが、できないのだから仕方がないのではないか。

話合いはしてもよいが、あの人達の考え方と私の考え方は全然違う。

【村田副会長】

他には、レルヒの会やホテルの会など。正善寺の方はどうか。

【齋藤委員】

いくつかある。

【村田副会長】

そのような方々と。

【高橋委員】

だが、私の作ったパンフレットには、ホテルの里のことや金谷山のボブスレーなど、金谷山の観光のことも書いてある。また、金谷山は山に登らなくても、下にあれだけの歴史的なものがある。例えば、西郷隆盛の弟の墓がある。それから高田事件の話など、金谷山にはものすごくいっぱいある。

【村田副会長】

それなのに、金谷観光協会の執行部は動かないのか。

【高橋委員】

そのようなことは全然していないだろう。

【村田副会長】

今もまだ駄目か。

【高宮会長】

皆さんの意見を聞くと、こうだという方向がまだ出て来ないため、正副会長で今後の進め方等を検討し、次回以降もう一度協議したいがよいか。みんなから「これはもうよいのではないか」と言われれば、これで自主的審議は終わりにすることになるが、どうか。

【高橋委員】

審議はしなければいけない。今話しているのは金谷観光協会との話だけ。「金谷区の観光・イベントについて」、今後このようなことをしたらどうかという意見を資料にまとめてある。そのため、協力できるものは協力していかないといけない。「観光はもう駄目だからやめよう」では話にならない。ここまで何をしてきたか分からないので、継続しなければいけない。

【高宮会長】

では、正副会長でまとめたい。また同じようなことを繰り返さないようにしたい。

【齋藤委員】

また来月も同じことをするのか。

【高橋委員】

今日は資料No.6の①しかしていないだろう。他に②、③、④とある。

【齋藤委員】

①のことが決まってしまうと、他は何とかかなりそうな気がする。

【高宮会長】

皆さんから出された意見をもとに、正副会長で今後の進め方について協議し、次回以降の会議で続きを議論することでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

—次第5 事務連絡—

【高宮会長】

次第5「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

- ・今後の日程

地域協議会活動報告会（地域活動支援事業説明会）

3月13日（水）午後6時30分～ 福祉交流プラザ

第12回地域協議会

3月27日（水）午後6時～ 福祉交流プラザ

【高宮会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831（直通）

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。